ルーシー変奏曲（へんそうきょく）

ザール作　西村（にしむら）かおる訳　小学館（しょうがくかん）

「二度（にど）とピアノを弾（ひ）かないと決（き）めたんだな、ルーシー」

プラハのコンクール会場（かいじょう）で、突然（とつぜん）舞台（ぶたい）をおりてしまったわたしに、いかめしい顔（かお）で祖父（そふ）は言（い）った。あれから八（はち）か月（げつ）。それまで英才教育（えいさいきょういく）を受（う）けてきたピアノを、わたしは一度（いちど）も弾（ひ）いていない。自分（じぶん）がなにをしたいのかもわからない。だけど、弟（おとうと）の新（あたら）しいピアノ教師（きょうし）ウィルとの出会（であ）いが、わたしを変（か）えた。

もう一度（いちど）、ピアノを弾（ひ）きたい。

少女（しょうじょ）から大人（おとな）へ。まだ定（さだ）まらない将来（しょうらい）へ向（む）けて、不安（ふあん）や疑問（ぎもん）と向（む）きあいながら歩（あゆ）んでゆく十六歳（じゅうろくさい）の物語（ものがたり）。